



# 宮永岳彦記念美術館だより

2022 11 月

発行/ 秦野市立 宮永岳彦記念美術館 〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2  
TEL / FAX 0463-78-9100

## 常設展示室

## 市民ギャラリーのご案内

入場無料



### 第3回さきおり工房浩子と織人たち展

11月3日(木祝)～11月6日(日)

10:00～17:00 (初日 12:00 から)

江戸時代から続く裂き織りの伝統を今に伝える。当日は100点を超える展示や販売もあります。お楽しみに！

### 第13回鶴巻デジタル写真教室 写真展

11月22日(火)～11月27日(日)

10:00～17:00 (初日 13:00 から 最終日 16:00 まで)

その時々々の被写体の表情を楽しみながら写しとったものです。ぜひ楽しんでみてください。

### 日本画府写真部展

11月29日(火)～12月4日(日)

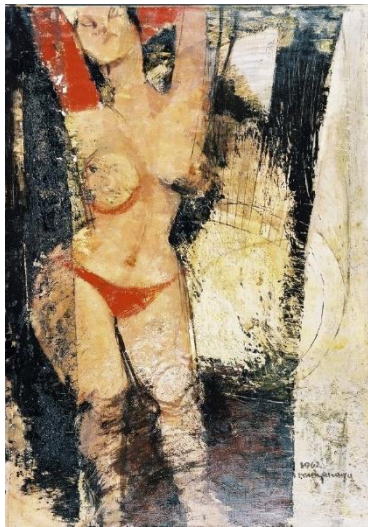
10:00～17:00 (初日 13:00 から 最終日 15:00 まで)

部員がいろいろけんめい努力して作成した写真です。よろしくお申し込み申し上げます。

- ※ 11月1日(火)から2023年5月分までの予約を受け付けています。
- ※ 新型コロナウイルスの影響により、催し物の予定が急遽変更になる場合があります。ご来館の際は、お気軽に美術館にお問い合わせください。

### 展示作品より今月の一点

#### 《リズム》



1956年、日本で「世界・今日の美術展」が開催され、最もアヴァンギャルドな世界の美術が集結すると、アンフォルメル・抽象ブームの旋風が日本画壇に吹き荒れました。それに影響を受けた宮永は「ジョルジュ・ブラックの黒の使い方を随分研究した」と語り、画風を大きく変え、様々な試みをします。

この作品では背景に黒を施し、裸婦を主題として動を描きました。色やフォルムは簡潔な画面構成にし、女性のポーズによる動きではなく、ペインティングナイフを使った大胆な画風と色面で動を表現しました。さらにここでは画面構成に加え、光に対する意識、黒の使い方に腐心した様子が見て取れます。

時代の美術思潮を敏感に感じ取り、自己の表現に取り入れようと意欲的な宮永は、海外の名立たる画家に刺激を受け、変化を恐れず、多様な表現に挑み続けました。模索しながら宮永芸術を確立するまでの一端を辿りながら、バラエティー豊かな画風の変遷をお楽しみください。

油彩画 30P 1962年

◆ 観覧料 ・ 一般 300円 (弘法の里湯利用者は100円割引)  
・ 高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

### ギャラリーコンサートのお知らせ

毎年恒例のギャラリーコンサートを12月17日(土)に開催します。今年はクラシックコンサートを予定しています。詳細は文化振興課にお問い合わせください。

☎ 0463-86-6309

11月の休館日: 7日(月) 14日(月) 21日(月) 28日(月)

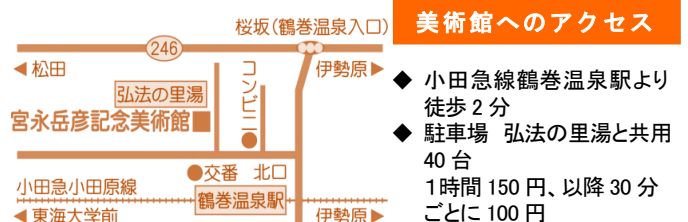


『週刊漫画 TIMES』

宮永は『週刊漫画 TIMES』の表紙画も手掛けました。大人向けの週刊雑誌の表紙としてコケティッシュで小悪魔的な女性が多く描かれています。

どの表紙画も季節の小物や流行を取り入れ、趣向を凝らした一枚になっています。

本展示では雑誌も展示しておりますので、合わせて御覧ください。



《隣接》 公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL0463-69-2641